



変わる時代の確かな視点

## News Release

# 2020・2021 年度特別調査 「第6回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」のご案内

株式会社ニッセイ基礎研究所では、9月下旬に全国の20～74歳の男女2,579名に対して、新型コロナウイルスのワクチン接種状況や接種済み記録等を活用して行動制限を緩和していくことについての考え方、今後の行動予測、そして、継続的に変化を捉えているコロナ禍における行動変容や不安感について調査致しました。

ワクチンの2回目接種率が国民全体の約6割に上り、今月から行動制限の緩和へ向けた実証実験が開始されています。調査では、接種済み記録等の活用に約6割が賛成していますが、その条件として、約半数が病床使用率や重症者数がおさえられていることをあげています。また、今回の調査では、感染力の強い変異種による感染拡大を経たことで、調査時点では既に感染状況は改善傾向にあったにもかかわらず、公共交通機関や店舗、外食の利用控えの傾向が7月の前回の調査よりやや強まっています。一方、巣ごもり需要によるネットショッピングやキャッシュレス決済、食のデリバリーサービスの利用の伸びは鈍化しています。働き方では、テレワークが定着した層では利用がより進む一方、全体としてはテレワークの利用者層はやや減少しています。また、友人との距離が広がることや出合いが減ることなど、人間関係の不安は強まり続けています。

なお、ニッセイ基礎研究所では、今後も変化を追跡するために継続して調査を実施する予定です。

### <調査結果のポイント>

- ✓ ワクチン接種が進むことで、接種に消極的な層が10.9%へ低下(7月は17.9%)
- ✓ ワクチン接種後にやりたいことは圧倒的に国内旅行:53.2%、次いで外食:38.2%、友人と会う:34.8%
- ✓ ワクチン接種済み証明等の活用に60.3%が賛成、ただし、条件は病床使用率等がおさえられていること
- ✓ 具体策では「飲食店の営業時間」や「介護・医療施設の面会」の制限緩和に過半数が賛成
- ✓ コロナ禍で増えていたネットショッピングやキャッシュレス決済、食のデリバリーサービスの利用の伸びは鈍化
- ✓ 公共交通機関や店舗、外食の利用控え傾向は当初より緩和されたが、7月よりやや強まっている
- ✓ テレワーク定着層では利用がより進む一方、全体としてはテレワーク利用者層がやや減少
- ✓ 友人との距離が広がることや出合いが減ることなど、人間関係の不安は強まり続けている

調査結果の概要は[こちら](#)から

この件に関するお問い合わせ  
ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」担当 久我・井上  
[pr\\_corona@nii-research.co.jp](mailto:pr_corona@nii-research.co.jp)  
Tel.03-3512-1800  
102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | [www.nii-research.co.jp](http://www.nii-research.co.jp)



RESEARCH